

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190100131		
法人名	株式会社 メディカルシャトー		
事業所名	グループホーム白ゆり中央 花の館		
所在地	札幌市中央区南9条西7丁目1番28号		
自己評価作成日	平成28年6月22日	評価結果市町村受理日	平成28年9月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigyosyoCd=0190100131-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成28年8月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは理念を大切に、町内会と繋がりが強く交流が続いている。北海道神宮祭や季節行事に入居者様・職員が参加したり、ホーム行事にも地域の参加がある。建物を地域に開放して講習会や、三世代交流もちつき大会を合同で開催するなど交流を活発に行っている。

また、写真をフロア内に展示する事で、ご家族や入居者様との会話やコミュニケーションに活用している。建物1階にはデイサービスがあり利用者様との交流が図れたり、敷地には畑、隣は協力医療機関や交番、近くにドラッグストアと日常的に外出でき、市電など公共の乗り物も多くあるため、来訪者も多く、アットホームでゆったりとした時間が流れている。

入居者様は日常生活の中で各々に役割や日課をもち、家事のお手伝いや体操、学習問題に取り組んだり、他フロアの入居者様とも交流する等の機会がある。また、各々の疾病や心身の症状にあわせコミュニケーションを大切に、気持ちに寄り添いながら柔軟な対応を心がけ、他職種とも連携し、ホームで長く生活が続けられるように取り組んでいる。

働く職員は外部研修へ参加したり、資格取得の勉強会の開催、毎月1回スタッフ研修会で働きながら学ぶ機会があり自己研鑽をしながらより良いケアの提供に向けて取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

銀杏並木が美しい南9条通に面しており、鉄筋コンクリート5階建てビルの1階は併設のデイサービスセンター、2・3・4階が3ユニットの『グループホーム白ゆり中央』になっている。地下鉄駅・交番・病院・飲食店・コンビニ・ドラッグストア等に近く、市民の憩いの場である中島公園も徒歩圏内にあり、入院設備のある協力医療も隣接しており、恵まれた環境に建つ事業所である。1階玄関には、利用者家族が自由に記入できる『何でもノート』を置き、家族の意見や要望を吸収する努力をし、家族には年間や月間の計画表と事業所便りを送付し、行事や日常の状況が伝わる工夫をしている。町内会との交流も多く、町内会行事のふまねつとや餅つき等を事業所内で開催し、近隣住民は事業所の畑作業の手伝いに訪れており、利用者とも交流し良好な関係を築いている。職員の資質向上にも力を入れ、毎月事業所内研修を開催し、介護福祉士や介護支援専門員等の資格を取得している。管理者及び職員は、事業所理念を大切にし、理念の中の一つを『今日の目標』として、介護に活かしている。日中の時間帯は職員配置を厚くし、利用者と共に過ごす時間を大切にしており、地域密着型として利用者の視点でケアサービスを提供している温かい事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念の中に『地域の核となり和をもって輪を広げよう』と掲げ、朝礼でも復唱している。各フロア勤務者で「今日の理念」を一選択し、その理念に基づいた一日を過ごせるよう具体的目標に向かってケアにあたっている。	事業所独自の理念を作成し、パンフレットにも記載している。毎日全職員で話し合い、理念の中から1項目を選び、『本日の理念を』業務日誌に記載し、さらに『おもてなしの四大要素』も掲示して、常に意識を持ち、ケアサービスに反映しているか確認している。また、理念は朝礼で唱和をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	西創成第4町内会に属しており、回覧板や定期総会への出席、ホームを地域行事の会場として開放する等、町内会と情報を共有し活動に参加している。また地域住民民生員ボランティアが継続的にホームへも関わり交流を続けている。	事業所主催の白ゆり夏祭りや、白ゆり盆踊りには地域住民が参加している。勤労感謝の日には日頃の感謝の気持ちを込めて、利用者作成のメッセージ入り色紙を、近所の交番や調剤薬局等に進呈する等、地域と交流の機会を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事参加や介護予防『ふまねっと』講習会をホームを会場とし提供する等で、交流機会を設けて理解に生かしている。運営推進会議で介護サービスの説明や認知症に関する質疑応答の場がある。近隣住人が立ち寄り認知症介護の相談も受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回実施。定期報告の他、避難訓練の見学総評意見交換、ホームの食事、家族アンケート調査結果と改善報告・地域家族交流行事の反省会等状況に即した議題を準備しご意見を頂きサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度定期開催し、状況報告・防災・事業所独自の家族アンケートについて、意見交換を行っている。毎回現状に合わせ議題を決め、会議を行っており、常に充実した会議になっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政へ届け出提出、制度不明点は都度確認、ご指導を頂きながら運営に努めている。又、地域包括支援センターに運営推進会議参加頂きアドバイスを受け協力関係を築いている。管理者は地域ケア推進会議に出席している。	行政とは、ケアサービスの疑問や質問等を随時相談し、日常的に連絡を取り共にサービスの質の向上に取り組んでいる。管理者は、区地域ケア推進会議の代表を務め、他事業所と交流している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故対策委員会が中心となり、研修会を行い、正しい知識と理解を深めスタッフ研修を実施。コールマット等使用されている場合でも、毎月解除に向けて話し合いを行っている。玄関は24時間施錠していない。	ケアの場面ごとに事例を基にしなが話し合いをするなど、職員の理解が深まるよう工夫した研修を行っている。介護者の声掛けによって精神的な自由を奪われ、自由な行動の妨げになるスピーチロックにも注意しながらケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	事故対策委員会を中心となり、研修会を開催。グループワーク等を行い、日々のケアに問題はないか話し合う機会がある。また、報道等の事例は回覧し情報共有。虐待に繋がらないよう不適切なケアについても理解を深めお互いのケアを確認合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事故対策委員会を中心に地域権利擁護事業や制度についてスタッフ研修会を行い学んでいる。実際に成年後見人制度を活用している利用者様が複数おり、日頃から日常的に関係者と話し合いや関わりの機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結や解約は、契約書類の読み合わせ補足説明を行ない質問・確認を取りながら実施。改定は必ず事前に文章説明を実施、必要時面会や電話連絡で直接補足説明や報告同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回ご家族アンケートを実施しご意見を頂く機会がある。又入居者個々にご家族要望シートを作成し面会・電話・fax等細かな情報共有からご要望までを記録し職員で共有、運営へ反映している。玄関に意見箱も設置している。	苦情箱を設置しており、利用者家族の来訪時の会話の中から、意見要望を聞き『家族要望シート』に記録し、全職員で共有している。年一度実施する、無記名の家族アンケート結果は、分析すると共に全家族にフィードバックしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本社ビル内にホームがあり、代表者や会社役員と接し会話する機会が多い。月1回全体会議を実施、代表者や管理者が出席しており、会議内では職員が意見を述べる機会がある。定期的に管理者と面談機会があり、意見や提案を伝える事が出来ている。	人事考課制度を導入し、各個人の実績を評価している。また、職員毎に目標を明確に設定し、必要な研修への参加等、スキルアップを促す環境づくりを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力や実績、勤務状況を把握し、給与や労働時間の整備を行っている。会社の中で目標シートの作成や評価面談、勉強会や外部研修に参加し知識の向上、試験勉強や希望を考慮し有給休暇が取りやすく、やりがいや意欲を持ち働ける環境が整備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社から毎年テーマが配られ指標にして取り組んでいる。新人はOJT研修期間が設けられ、安心して働けるように、毎月スタッフ研修会開催し、職員一人一人の力量や興味に合わせ年に1~2回外部研修に参加し研修後には会議の場で伝達講習が行えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中央区グループホーム管理者連絡会やスタッフ研修会が当ビル会議室を使用して定期的開催され他ホーム職員との意見交換や学びを通じて質の向上に役立っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者、計画作成担当で事前訪問するなど直接会話をし、ニーズの把握をし、介護サービス担当者との情報交換を行い、安心した関係づくりが行えるように努め、ケアプランの立案を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のホーム見学、事前訪問や、入居に向けてのやり取りの中で、要望や困りごとを聞き取り、在宅で利用していたサービスからの情報も取り入れ、ケアプランに活かすことで、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の生活状況の聞き取りの際、必要な支援を見極め、職員で情報を共有しケアに活かしている。ニーズがあれば、相談時点で必要な他のサービスの紹介や手続きの支援もしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に各々役割をもち、職員と一緒に協働で家事活動を実施している。ホームを家の様に暮らす関係性を構築している。実施するときは必ず入居者の自己決定を促し本人の想いを優先したケアに携われるよう意識して行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話でご家族へ近況報告、月に1回白ゆり便りで様子のお手紙や行事参加のご案内をつけて発送している。報告を細やかにし、ご家族の意向や相談を行う事で共に支えあい本人が安全安心して生活できるよう関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られたご家族や友人とゆっくり過ごせるようお部屋にお茶をお出しして様子をお話したり会話がしやすいよう配慮している。ご家族と相談して馴染みの場所(自宅など)へ外出が出来るよう連絡調整し支援している。	月に1度開催する茶話会では、おはぎ作り・射的・浴衣の着付け等、利用者の古くからの興味や習慣を通じた活動を取り入れており、大変好評である。また家族と共にコンサートや墓参りに行く等、関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロア内に食事の座席以外にくつろげるソファなどを配置し好みの場所で過ごせるようにしている。また、家具や食席の配置に配慮して職員が会話の橋渡しができるよう傍らで介入し、レク活動を通じて関わりあえる関係性を構築できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去先がある場合は、面会に行く事もある。その際は本人との精神的つながりを大切に伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりなど本人の意向や希望を話す機会を作り汲み取るよう努めている。意思表示の困難な場合も本人の本来の姿を忘れずに検討するよう努めている。また、ご家族より情報収集を行っている。	家族から得た情報や、日頃の行動・表情・過去の生活歴を基に、個々の思いや暮らし方の希望や意向を汲み取り、日々の様子は介護記録に記録して、職員間で情報の共有をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のサービス情報や本人、ご家族との会話を通じて情報収集を行い、センター方式も活用して、これまでの暮らしや思いの理解に努め、職員間で周知して共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の介護記録やケアシートを作成し記入している。会話意外にも、細かな表情や仕草口調の変化からその日の様子把握に努め、休息や活動などのバランスを図り、その時々にあった柔軟な対応に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の会話や希望の聞き取り等、情報を収集しサービス担当者会議やモニタリング会議時に職員全体と話し合い、本人にとってより良いケアの検討やご家族の意向を反映したケアプランを作成している。	定期的な見直しは3カ月毎に行い、身体の変化や本人・家族の要望を取り入れ随時見直しを行っている。医師、看護師とは連絡を密にし、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にケアプランのチェック項目を入れるなど、個別に作成し見直しをしている。ケアシートを活用し、気づきや日々の経過等の情報を自由に書けるようにして共有している。月1回モニタリング評価を行い、ケアの方向性を確認し振り返る機会を設けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	町内行事への参加やボランティアの活用(歌レク、傾聴楽器演奏、園芸等)を受け入れ実施している。1階には調剤薬局があり薬剤師との相談ができ居宅療養管理指導を受けている方もいる。また、デイサービスも併設されており交流の機会もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会主催の地域行事へ参加したり、町内会婦人部主催の『ふまねっと』講習会をホームで開催し地域の方と一緒に活動している。また、夏祭りや盆踊り、もちつき大会などホーム行事や協同行事があることで、地域の方も参加して頂き交流機会が多い。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回内科医の往診、希望者には精神科の往診を受けられている。ご家族からの質問等がある場合は、往診時に同席や、職員が代行し確認している。往診医の内科病院は隣にあり、上申し外来受診ができる。	2週に1度の協力病院医師の訪問診療がある。看護師は、同じ建物の1階にあるデイサービスセンターに勤務しており、週2回来訪し利用者の健康を支えている。また個々の病状に合わせた医療機関を受診できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回看護師の巡回があり、体調の報告や相談を行っている。看護師は同一施設内のデイサービスセンターに勤務しており、巡回日以外でも相談しやすい関係である。24時間のオンコール体制もあり、急な体調変化等も、相談や指示を受けることができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に面会に行き、不安の軽減に繋がるよう配慮している。また主治医や看護師と情報共有を行い、早期の退院や受け入れの必要環境の準備調整など柔軟に対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にはご家族様と本人の重度化の指針に基づき意向について確認し話し合う時間を管理者とともっている。重度化した場合や終末期については、状況に応じて、ご家族や医師との話し合いの場を設けており、意向に沿った支援を行うよう取り組んでいる。	重要事項説明書に、『重度化した場合における対応に関わる指針』を明記しており、入居時に説明している。重度化した場合は随時、医師・看護師・家族等、関係者全員で話し合い、チームとして支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生・緊急時のマニュアルがあり、研修等へ参加して対応方法を身に付け、内部研修にて職員間に周知している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事故対策委員会が主導となり、各フロアに連絡網、マニュアルを常備し、都度確認を指示している。また、定期的に研修を行い、情報の更新と職員への周知を行っている。	年2回、消防署の協力の下、利用者・近隣住民共に避難訓練を行っており、運営推進会議で報告・検討をしている。さらに事業所独自の災害訓練も自発的にし、問題は、改善に向け検討している。災害時備蓄品も用意している。	災害時には、近隣住民の助けが重要になる。事業所の近隣には商店も多く、病院・交番・ボランティアで訪問する近隣住民等と日常的に交流があるので、訓練の参加依頼を全体会議で検討することを、期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人らしき尊厳を大切に居室環境や空間作りを行っている。入居者の生活歴に沿って敬う気持ちを忘れないよう言葉掛けには配慮している。	利用者の行動や思想を制限することなく、一人ひとりの尊厳を大切にしている。申し送り時には、個人を特定できないように、イニシャルを使用する等配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のお話を傾聴共感し、本当に伝えたい想いを確認出来るよう努めている。相談時は、提案のように話を行い、自己決定を促す言葉掛けや行動を支援している。また思うように言葉で表現が難しい方には態度、仕草などで思いを汲み取る等して確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課や日常生活の中で必ず、入居者に自己決定を委ね、相談しながらどのように過ごすのか決める事で、柔軟な対応に努めている。言葉の表現が困難な際も表情や仕草などから思いを汲み取り支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室にも個別洗面台があり椅子を用意するなどして、本人のペースでゆっくり整容していただいている。また行事や外出の際は洋服選び等を行っている。好みの色や柄等を把握し必要時は介助を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食物の好き嫌い、アレルギーの有無などの把握に努め、必要な際は個々に合わせた代替を提供している。調理の準備手伝いを利用者と共にし、食事が楽しめるよう配慮している。またペースト食等個々に合わせた形態にて提供している。	利用者の誕生日には、希望に合わせた食事を作り皆でお祝いをしている。、土用の丑の日にはうな井、彼岸にはおはぎを提供し、料理と共に季節感も味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量をチェックし記録に残している。摂取状況を見て食事にとらわれず補食やゼリー等好物を入居者の好みや体調、気分等状況に合わせて提供し本人のタイミングで美味しく食べられることを大切にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	希望者には歯科の無料検診の往診を受け指導や適切な口腔ケア用具のアドバイスを頂いている。個々の身体状況に合わせて食後に口腔ケアの声掛け促しや介助を行い清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをつけている方もいる。排泄間隔やサインを見逃さないように注意観察し、出来る限り汚染せずにトイレで排泄が出来るような声掛け誘導、排泄状況にあったパットやリハビリパンツの変更などを行い本人が快適に生活できるよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、周りの人に気づかれない様に、さりげなくトイレ誘導し排泄の自立支援をしている。ユニットに3ヶ所あるトイレは使いやすく整備され清潔である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを記録している。個々の排便間隔の把握に努め、タイミングに合わせた誘導を行っている。水分摂取、運動や活動を個々に合わせて提供、また毎朝オリゴ糖入りの牛乳を提供するなど自然に近い形で排便が促せるよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日お風呂を実施し、本人と相談し希望に沿った日に入浴できるよう支援している。体調に応じて入浴時間やシャワー浴など調整、長湯の方には体調に注意しながら満足いく入浴が出来るよう支援している。	一人ひとりの希望や体調に合わせて入浴支援をし、菖蒲湯やゆず湯等で、入浴でも季節を感じてもらえる様に支援している。さらに希望があれば毎日入浴できる。必要に応じシャワー浴や清拭にも対応し、清潔保持に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量が多い日や疲労が見られる時は声掛けし本人が休みたい場所で休息がとれるよう支援している。また夜間も静かに休めるよう照明を落としたり物音に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報をすぐに確認できるよう個人ファイルに綴っている。1階に調剤薬局がありいつでも相談できる環境にある。また、往診時には主治医と一緒に看護師・薬剤師も巡回しているため、個々の薬の働き方や副作用など共通理解し本人をサポートできている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自宅で実施していた日課(ポストに新聞を取りに行く等)の継続や食器拭きなどの家事活動、生活歴など入居者の希望に沿ってケアを組み立て支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人と相談し天気の良い日は敷地にある畑や近所の散歩等外気浴支援を行っている。また誕生日外出や行事の場所などは思い出の場所など情報収集した上で、目的地を決めご家族へ案内し一緒に参加できる機会がある。	心身の活性化につながるよう、一人ひとりの身体の状態に配慮しながら、日常的に近隣散歩や、買い物に出掛け、白ゆり農園の作業に参加している。外食や行事外出の機会も多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、ご家族本人の希望で現金を所持されている方はいないが、ホームで預かり金制度があり買い物時の支払いを行って頂きお金を使用する機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの設置電話で希望時には職員が介入して支援している。居室に電話を設置して自由に通話している方もいる。また手紙のやり取りをしている方もおり、返事を出せるよう促し支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員の声のトーンやテレビ音楽の音量、物音や室温、湿度、陽射しや共有場所の清掃等生活環境に配慮して、快適に過ごしていただけるよう心掛けています。共有フロアや廊下に季節の移り変わりを感じていただけるような飾り付けを行い、また一緒に作成した作品や行事写真を掲示している。	窓が多く明るいリビングで、食事や団欒の時間を過ごしており、ユニット内の随所に、個々が自由に休めるソファを設置している。廊下は広く長く歩行運動に役立っている。共用空間の壁には、利用者の手芸作品や行事写真が飾られている。大型空気清浄機を設置し、清潔で居心地のよい共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有フロアには、食事の席以外にも、自由にくつろげるソファやテーブル席を設置しており、各々が思い思いの場所で過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの家具の持込、家族写真、アルバムなどを飾っている事で本人の慣れ親しんだ環境に近づけ寂しさ等感じないように、また身体状況の変化にあわせて安全性を考慮してレイアウトを変更するなど居心地良く安心して過ごせるよう工夫している。	各居室には洗面台・クローゼット・電話端子・ナースコールを設置している。馴染みの家具や日用品を各家庭から持ち込み、家族写真や手芸作品等を飾り、安心して心地よく過ごせるように配慮工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の居室入口にのれんや写真等の目印、表札を配置している。トイレや浴室の入り口付近に名札を設置し大きく見やすい表記にして認識しやすいように工夫している。		